

平成20年3月27日 統合DBプロジェクト作業部会資料

## 統合DBプロジェクト終了後の体制について

### 背景:

- ・平成20年度の予算が3割以上削減
- ・平成21年度も同様に厳しい可能性あり
- ・予算額の回復を図るためには、プロジェクト終了後(平成23年4月以降)の体制を明示し、それに向けた目標や年次計画を示す必要あり
- ・これを21年度の予算編成の議論に間に合わせるには、今年の4月末までをめぐり議論のとりまとめ必要

### 前提:

- ・ライフサイエンスに係る府省のデータベースをすべて統合するナショナルセンターの設置が理想的ではあるが、現時点では容易ではない
- ・そこで、ここではおもに文科省傘下のデータベースの統合化のための体制について議論することとする
- ・文科省傘下とはいえROIS以外の組織・機関を勝手に議論の俎上にあげることは適当ではないが、それをしないとあるべき姿は到底描けないので、ここでは、ROIS以外の組織・機関を含めた体制のあるべき姿について議論する

### あるべき姿:

- ・統合DBプロジェクト終了後の体制として考えうるものは大きく以下の4つ
  - A. 新規に恒久センターを立ち上げる  
行革のため大きな困難伴う、文科省と上位意思決定機関での議論が必要
  - B. 既存の組織・機関の再編・合体  
別法人間でそのようなことが実現可能か? どの場で議論する?
  - C. 既存の組織・機関の仮想的な連合体形成  
現在の体制に近い; より一体的な運営をどう実現するか? どこがお世話?
  - D. BとCとの折衷  
どのような組み合わせが良いか? 実現可能か?

### データベース構築に関連する既存の組織・機関:

統合DBセンター、遺伝研(DDBJ)、情報研(大学共同利用機関法人)  
JST(BIRD、文献事業)、理研(生命情報基盤部門、各センター)(独法)  
大学附置研等(大学法人)